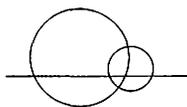


〈資料紹介〉



## 2010年度に寄贈された資料の紹介

愛知大学東亜同文書院大学記念センター ポスト・ドクター 武井義和

記念センターには、毎年東亜同文書院卒業生やそのご遺族、さらには東亜同文書院に関心を持っておられる方などから、東亜同文書院に関する様々な資料が寄贈されている。それらは、毎年度末に記念センターが発行する『同文書院記念報』で継続して紹介しているが、今回は2010年度に寄贈された資料の中から、『読史方輿紀要』と『天下郡国利病書』をご紹介します。

これは2010年5月に、広島県在住の落久保博明氏が記念センターに直接持参下さったもので、立派な木箱に収められている(写真1)。裏面には「大正四年六月二十七日 上海東亜同文書院卒業生 落久保半一」と、一部消えかかっているがかなり鮮明な墨書きがある(写真2)。落久保半一氏とは落久保博明氏の御祖父様で、書院12期生、卒業後は横浜正金銀行勤務を経て、広島高等師範学校、広島文理大学の講師となり、最後は広島大学助教授で退官された方である。寄贈資料は半一氏が1915(大正4)年6月27日に卒業した際、卒業成績が優秀であったため東亜同文書院から贈られたものである。写真から分かるように、保存状態は100年以上前のものとは思えないほど非常に良い。

『読史方輿紀要』は顧祖禹(1631～1692年)によって清朝初期の1678年に完成された130巻

に及ぶ地理書であり、『天下郡国利病書』も顧炎武(1613～1682年)が清朝初期にまとめた地理書である。半一氏が東亜同文書院から贈られたものは共に光緒二十七年(1901(明治34)年)に図書集成局から刊行されたものである(写真3、写真4)。ただし、『読史方輿紀要』は32冊に、『天下郡国利病書』は120巻分が28冊にまとめられている。

東亜同文書院は大旅行に象徴されるように中国研究を行っており、その大旅行では学生たちが夏休みを中心とする2～3ヵ月を費やして中国各地を調査して歩いた。したがって、『読史方輿紀要』と『天下郡国利病書』が贈られたことは、こうした東亜同文書院の特色の反映といえよう。

この『読史方輿紀要』、『天下郡国利病書』とあわせて寄贈された落久保半一氏に関する資料は、『同文書院記念報』VOL.19をご覧ください。

このたび、貴重な資料を寄贈下さいました落久保博明氏に厚くお礼申し上げます。

※ 落久保半一氏の略歴については『東亜同文書院大学史』(渥友会、1982年)、『読史方輿紀要』については海野一隆「読史方輿紀要とその地域論」(『史林』36-3、1953年)、『天下郡国利病書』については井上進「顧炎武」(白帝社、1994年)を参照した。詳細はこれらの文献をご覧ください。



写真1 『読史方輿紀要』と『天下郡国利病書』が収められた木箱

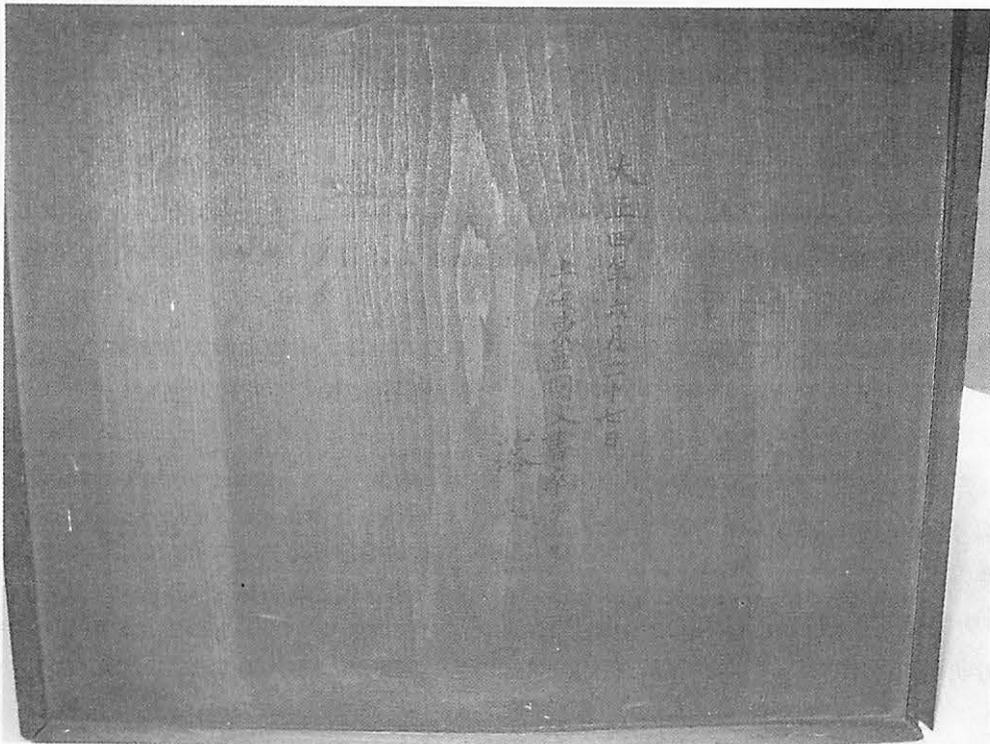


写真2 木箱の裏面



写真3 『天下郡国利病書』(左)と『讀史方輿紀要』(右)の一部分

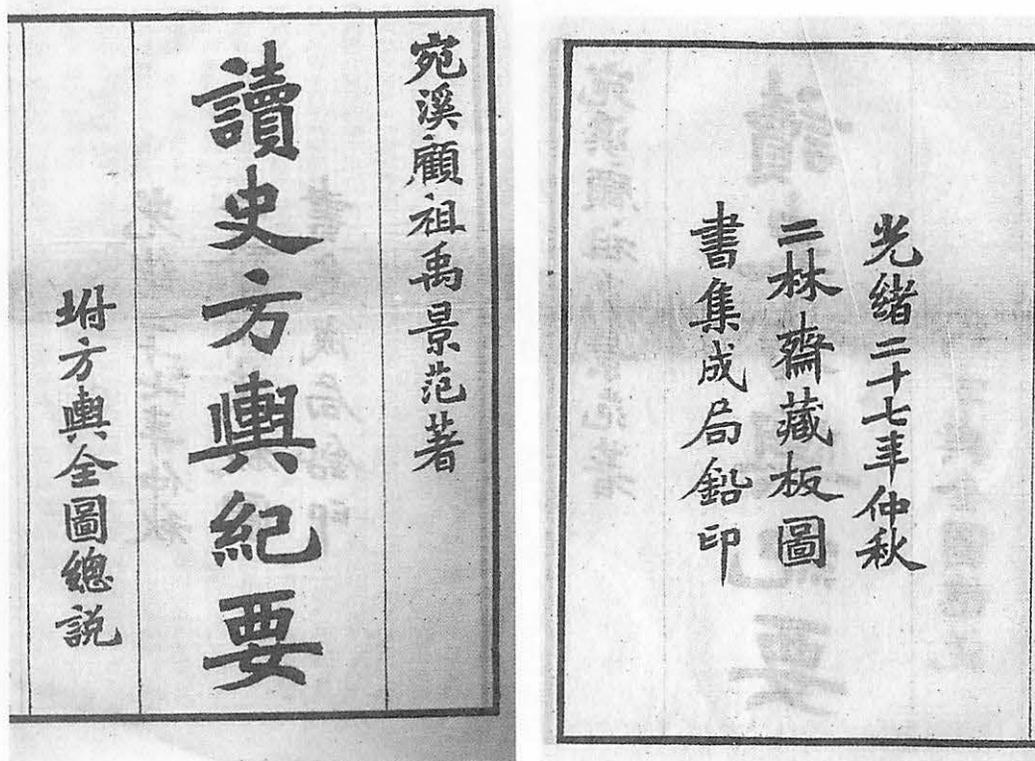


写真4 『讀史方輿紀要』第一巻の中表紙(左)とその裏側(右)